

平成30年度第8回士別市教育委員会会議録

1. 開 会 平成30年12月 4日 (火) 午後 4時03分
2. 閉 会 平成30年12月 4日 (火) 午後 5時40分
3. 会 場 教育委員会 教育長室
4. 出席者 教育長 中 峰 寿 彰 生涯学習部長 鴻 野 弘 志
代理 五十嵐 紀 子 生涯学習部次長 漢 幸 雄
委員 千 田 秀 昭 合宿の里推進室長 三 上 正 洋
委員 馬 場 千 晶 合宿の里推進室指導監 濱 田 納 睦
委員 加 藤 洋 之 学校教育課長 須 藤 友 章
学校教育課参事 大 留 義 幸
学校教育課参事 藤 田 泰 昭

5. 議 件 (発言者、議事要旨及び議決事項)

○中峰教育長あいさつ

先日は台湾での研修お疲れ様でした。実際に現地へ行き「百聞は一見に如かず」と感じた意義深い研修であった。ホストタウン事業、特に高雄との友好関係に寄与できたものと自負。委員のみなさんから感想などレポートをいただきたい。日向スキー場は2日にオープンしたものの、現在は休業中。朝日スキー場は雪待ちの状態。九十九大学の総長に市長講話を行った。教職員の人事協議も始まっている。教育局の委員会訪問や教育長会議も控えているところ。社会教育委員の会議においては、博物館や公民館など社会教育機関がバラバラに動いている印象があるため、現状の課題等についてまとめてはどうかとの意見があった。事業の組み立てや体制について協議中。市議会定例会では5項目について一般質問あり。学校教育と給食センターが各2つと、東高校。学校ではインフルエンザが流行中。士小・士中で学級、学年閉鎖となっている。本日もよろしく願います。

1 議事について

○中峰教育長 進行

議案第25号 士別市立中学校部活動拠点校方式試行要綱の制定について審議する。

○藤田参事

南中の部活動のうち、男子バスケットボールとバレーの2種目が今年度いっばいで廃部になることについて議会で質問があったが、その対策として試行要綱を作る。今後は士中と一緒に活動するというもの。来年度の新生も対象とするなど試行の条件を設けた。活動のための移動は保護者責任。今後、検討委員会を設置する。

○中峰教育長

部活動に対する市としての考え方である。働き方改革とも連動する。さしせまって南中の部活動だが、士中、南中だけの問題ではない。多中の閉校も控えている。道内では札幌で学校間連携方式を実施しているが、他ではやっていない。本州では何カ所か実施していたが、頓挫したところもあると聞いている。

○五十嵐代理

小学生のミニバスについても同様。他の中学校でも希望する子が出てくるかもしれない。土中・南中だけの制度というように伝わらないように。

○鴻野部長

この問題については非常に議論が白熱し、結論が出なかったが、やれる部分だけでもやってみることにした。目指すところは部活全体のこと。

○中峰教育長

通学区域を含めて、全てフリーにすることは望ましくない。部活動というものをどう捉えるか。保護者の思い入れも人によって強さが違う。

○加藤委員

野球部の指導が厳しくて部活をやめてしまった子どもが、陸上部に入り全国大会に出場した例もある。何が幸いするかわからない。合同チームで中体連に出場可能なのか。

○藤田参事

例えば単独で出場可能な学校と、人数不足の学校が合同チームを編成した場合は出場可能。

○中峰教育長

柔道のような個人競技の場合は合同チームとはならない。中体連の考え方も整理するべきと感じる。子どもが部活動に取り組む機会をどうやって保障していくか。指導者の多くは現役で働いており、指導してもらえない事が多い。サッカーは部活動の形態をとっていない。

○藤田参事

例えば拠点校と在籍校の部員数が逆転した場合はどうするのかなど、現在も課題を抱えている。

○中峰教育長

校長会、学校にも周知済み。

○鴻野部長

保護者に対してチラシを配布し、周知したいと考えている。

○中峰教育長

教育委員会で仕組みを作った。まずは実際に動かしてみる。

○馬場委員

これからの時代はこういうことになる。やってみないと見えてこない事がある。

○五十嵐代理

うまく進めるポイントは、保護者に土別の現状を説明し、理解してもらうこと。

○加藤委員

個人的に相談を受けた事があるが、保護者の考え方が重要。望まれているのは部活を無くしたくないということ。制度の修正はその都度行い、失敗例にならないように。

○中峰教育長

リサーチは必要。部活動に関わっていない人の意見も参考にしたい。

※ 議案第25号 了承

2 報告について

(1) 土別市教育委員会補正予算について

○中峰教育長

事後になるが、定例会初日である11月30日に補正予算を提案し議決されたもの。

○須藤課長

小学校費において、灯油代の高騰により予算に不足を生じたもの。中学校費は市費で雇用予定だった事務職員が道費負担になったため、その経費を流用する。また、今年度末に統合する西小の利活用等に関わるアスベスト調査の経費を要求した。

○漢次長

本年3月に発生した公民館分館長の公務災害補償費を要求した。

○鴻野部長

博物館・公会堂展示館においても燃料単価の高騰により予算に不足を生じるもの。

○三上室長

スポーツ施設についても燃料単価高騰のため補正予算を要求した。

○中峰教育長

燃料単価は現在のところ少し落ち着いている。

○五十嵐代理

公民館分館の除雪体制はどのようなものか。

○漢次長

原則、屋根の雪は業者に依頼し、落とした雪も除雪してもらっている。分館長は屋根から落ちかけていた雪を自分で落とそうとしてくれた。高齢の方もいるので無理しないように説明している。

3 その他について

(1) 当面する今後の日程について

鴻野部長説明。

○鴻野部長

今年も年末年始の休みが長いですが、施設関係は全体の仕事はじめ前に開館する。

○漢次長

子どもを対象とした芝居を制作する。保護者向けに案内し、1月6日～11日頃に稽古する予定。また、例年開催している市民劇も3月に公演する。こちらは1月末から稽古する。多くの参加を。

○中峰教育長

成人式のやり方も変更する。コール朝日のみなさんに合唱を披露いただく予定。これまでの式は来賓がステージ上で、新成人が客席にいたため違和感があった。ステージを転換し、来賓は客席側にいる形態にしようと考えている。今回の新成人は170人ほど。

○須藤課長

上士別中学校の保護者に対し、特認校の指定について説明する予定。現在特認校として指定している多寄中学校が31年度末で統合となるため、31年度は2校を指定するものとしたい。

○中峰教育長

温根別公民館白山分館について、地域として分館の機能を残すべきか、温根別に統合するか検討中。公民館は地域づくりの始まり。今後のあり方を考えなければならない。文化協会は60年の節目を迎える。他の団体が記念事業を行った場合は、大規模な催しは行っていない。文化協会の考え方もあるが、他団体との整合性も考慮したい。来年は士別で道北文化集会在開催される。6年に一度の当番だが、前回開催時は文化センターの使用料を減免した。現在は要綱を改正したため減免できない。

○五十嵐代理

来年は道北合唱祭も士別市で開催する。会場はまだ決めていない。

○中峰教育長

市としての120周年にあたっての取り組みも、特に冠をつける事業などは行わない予定。

○五十嵐代理

多寄でコミュニティスクールだよりを発行しているが、全ての地区で発行するのか。

○藤田参事

それぞれの地域に一任している。いろいろな方法で発信に努めてもらっている。

○中峰教育長

北海道から社教主事と指導主事の4管内合同研修を多寄で開催したいとの依頼があった。題材は多寄地区のコミュニティスクール。今後、日程等について協議する。

○五十嵐代理

今後のスケジュールはFAXで良いので早く知らせてもらいたい。

○濱田統括監

北海道のスポーツ交流として、サハリン州からウエイトリフティング選手が来士する。16日には士別で開催する新人戦にエキシビションとして参加するので来場を。

○中峰教育長

台湾での研修は通訳に恵まれ深い研修になった。

○五十嵐代理

事前に我々の名前を覚えて、高雄の空港で対面した時にはきちんと呼んでくれ感激した。

○中峰教育長

公民館・社会教育関連事業として「台湾の言葉を覚えましょう」という講座を企画している。

午後5時40分 会議の終了を宣した。

この会議は、会議の顛末を記載し、相違ないことを証するため署名する。

教 育 長

中 峰 寿 彰

会議録調整者

須 藤 友 章